

大阪府版
依存症相談対応
人材養成テキスト
【ロールプレイ編】
＜薬物依存症編＞



2-1 薬物依存症本人編

★流れ

導入 ⇒ ロールプレイ（4分） ⇒ 感想・振り返り（4分）

<ロールプレイ>

【事例】

つとむさんは、覚せい剤所持で逮捕されたことがあり、それがきっかけで支援者であるあなたとつながりました。最近、つとむさんは元気がありません。あなたはつとむさんに来てもらい、話をきいてみることにしました。あなたはどのように話を聞いたらいいでしょうか。

支援者：つとむさん、なんだか元気がないように思いますが、どうかされましたか。

つとむ：え？…別に。何も…。

支援者：もし、困っていることがあるなら、お話を聞かせていただけませんか。私も一緒に考えたり、つとむさんの力になりたいと思っています。もちろん、つとむさんのお話は誰かに話したりはしませんから安心してください。



一緒に考える

秘密は守ると約束する

つとむ：…なんか、イライラするっていうか…。

支援者：イライラしてるんですね。どんな時にイライラしますか。

つとむ：うーん…、疲れた時とか…、家族と話してて、むかついた時とか…。

支援者：そうなんですね。そのイライラがある時って、つとむさんはどうしてるんですか。



まず、
じっくり話を聴く

つとむ：…どうしようもないっていうか、部屋で一人になって、耐えるしかない…。

支援者：イライラを耐えるのはしんどいですよね。



共感する

つとむ：しんどい…。正直言って、昔みたいにクスリを使ったら楽だろうなって思う。ダメってわかってるし、クスリを使っていた自分には戻りたくないけど…、一人でじっとしていると、クスリのことばかり考えてしまう…。

支援者：昔の自分には戻りたくないけど、クスリのことばかり考えてしまうんですね。よく話してくださいましたね。

 肯定する
 ねぎらう

つとむ：…やめるって親とも約束したし、自分もやりたくないけど、クスリのが頭から離れない。

支援者：やりたくないのに、頭から離れないのは辛いですね。

 共感する

つとむ：家族にはこんなこと言えないけど、本当は自分の中に、やりたくない気持ちと、やりたい気持ちのどっちもある。もう、自分が嫌になる。

支援者：やりたくない気持ちと、やりたい気持ちのどちらもあるんですね。どちらの気持ちもあって、誰にも話せないと、しんどいですよね。

 肯定する
 共感する

つとむ：クスリを使ったら、もうやめられないんですかね？

支援者：時間はかかるかもしれませんが、治療や相談を受ける中で、やめ続けることはできると言われていますよ。クスリをやりたくない気持ちと、やりたい気持ちの中でしんどい思いをされていることについて、保健所で相談にのってもらえると思うので、よければ一度、相談に行ってみませんか。

◎ 情報提供

つとむ：いや…、うまく話せるか…。

支援者：そうですね。もしよければ、今日お話いただいたことや依存症について相談をしてみたいということで、私から保健所に連絡してみましましょうか？保健所でも、秘密をきちんと守ってくれますよ。一人で行くのも不安だと思いますので、私も一緒に保健所へ行くこともできますが、いかがですか。

◎ つなぐ
 秘密は守ると約束する
 一緒に考える

つとむ：一緒に行ってもらえるなら、安心かもしれない。じゃあ、お願いします。

支援者はつとむさんの都合のいい日を聞き、保健所に電話をして相談の予約を入れました。

支援者：それでは、〇日に保健所の入り口で待ち合わせにしましょう。
それまでに何かあれば、連絡してくださいね。



長く関わる

【この後の経過】

つとむさんと支援者は保健所に相談へ行ったところ、今後継続して、覚せい剤の問題について相談することとなりました。また、自助グループを紹介してもらい、通ってみることにしました。支援者も引き続き、つとむさんを見守り、保健所での相談内容や、自助グループで感じたことなどについて一緒に考え、長く関わり続けています。

2-2 薬物依存症家族編

★流れ

導入 ⇒ ロールプレイ（4分） ⇒ 感想・振り返り（4分）

<ロールプレイ>

<p>【事例】</p> <p>みどりさんは、今後の生活について不安に思っています。どこに相談に行けばいいのかわからず、遠慮がちに電話で予約をとられました。初めての相談で、電話では詳しい話を聞いていません。そんなみどりさんが支援者であるあなたの目の前に相談に来たら、どのように話を聞いたらいでしょうか。</p>	
<p>みどり：あの…、生活のことについて相談したいんですが、どこに相談したらいいかわからなくて…。</p>	
<p>支援者：こんにちは。よく来てくださいましたね。生活のことといいますが、どのようなことでしょうか。</p>	<p> ねぎらう  まず、 じっくり話を聴く</p>
<p>みどり：娘と同居しているんですが、娘が仕事を辞めてしまって。私もパートで働いてはいるんですが、生活に困っているんです。</p>	
<p>支援者：そうなんですね。今はどのように生活されていますか。</p>	<p> まず、 じっくり話を聴く</p>
<p>みどり：私のパート代と、貯金を切り崩してなんとか…。</p>	
<p>支援者：なんとかやりくりされているんですね。娘さんは、仕事を辞めてから家で過ごされているんですか。</p>	
<p>みどり：…はい、まあ…。ちょっといろいろありまして…。</p>	
<p>支援者：よければ詳しく話を聞かせてもらえませんか？ここでお聞きしたことは、誰かに話したりしませんので、安心してください。</p>	<p> 秘密は守ると約束する</p>
<p>みどり：…実は、今、娘は刑務所にいるんです。覚せい剤で捕まってしまって…。捕まるのは2回目なんですけど、もうすぐ出所なので、娘の分も生活費が必要で…。</p>	
<p>支援者：そうなんですね。娘さんのことで大変だったんですね。覚せい剤の使用はいつ頃からでしょうか。</p>	<p> 肯定する  まず、 じっくり話を聴く</p>

みどり：たぶん、10年くらい前からだと思います…。…。でも、私もだめなんです。よくお金を貸してほしいと言われて、断ると暴れて部屋の中をぐちゃぐちゃにするので、怖くてお金を渡していたんです…。それで、覚せい剤を買っていたんだと思います。恥ずかしい話です…。

支援者：それはずいぶんつらい思いをされていたんですね。みどりさんがケガをするようなことはありませんでしたか。



まず、じっくり話を聴く

みどり：怖い思いはしましたが、私に暴力はなかったです。私も悪いですし…。机の上の物を全部落したり、お皿を割ったりするので、またそんなことをすると、お金がかかるのでつらいんです。

支援者：それだけでも怖いですよ。そういうふうになると、怖くてお金を渡してしまうのは、仕方がないことだと思いますよ。娘さんのことについて、どこかに相談されたことはありますか。



共感する

お金を渡したことを咎めるのではなく、怖い思いをしたことに共感しましょう。

みどり：いえ、こんなこと誰にも話できないし…。…。どこに相談したらいいかわからなくて…。一度捕まったらさすがにもう薬はやめようって思ったんですけど、やめなかったんです。だから今回もやめられないと思うんです。もう生活が苦しくて、娘が出所して家に帰ってきたら、どうしたらいいかわからなくて…。

支援者：娘さんが家に帰ってきたらどうすればいいかわからなくて、今日来てくださったんですね。話して下さってありがとうございます。薬物の問題について、保健所で相談できることはご存知ですか？本人だけでなく、家族だけでも相談できるんですよ。



ねぎらう

◎ 情報提供

みどり：そうなんですか？覚せい剤のどんなことを相談できるのでしょうか？やめさせてくれるのですか？

支援者：娘さんの薬物の問題について相談したり、専門の医療機関を紹介してもらえるそうですよ。保健所でも、秘密は守られます。もしよければ、私も一緒に行きますので、相談に行ってみませんか。あと、当面の生活費は大丈夫ですか。



◎ 情報提供



秘密は守ると約束する



一緒に考える



◎ つなぐ

みどり：はい。普通に生活する分は、私のパート代で大丈夫です。一緒に来てもらえたら話しやすいので、ぜひお願いします。

支援者はみどりさんの都合のいい日を聞き、保健所に電話をして相談の予約を入れました。

支援者：それでは、〇日に保健所の入り口で待ち合わせにしましょう。
それまでに何かあれば、また連絡してくださいね。

 長く関わる

みどり：わかりました。よろしくお願いします。

【この後の経過】

みどりさんと支援者は保健所に相談へ行き、みどりさんは娘の受診や娘との関わり方について、継続して相談していくことになりました。生活費については、生活保護受給の要件などを一緒に確認したことによって、みどりさんにこころの余裕が出てきました。また、みどりさんは薬物依存症の家族の自助グループについて保健所で教えてもらい、見学することになりました。支援者も引き続き、みどりさんと連絡を取り合い、声をかけ、保健所での相談内容や、生活のこと、娘との関係性などについて一緒に考え、長く関わり続けています。

○ ロールプレイまとめ

<本人編>

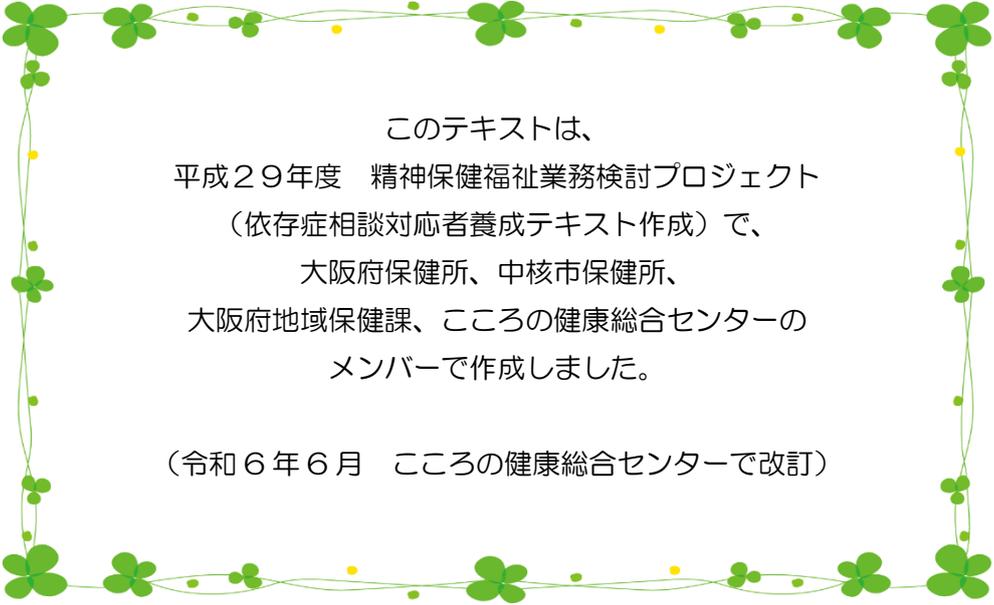
- ・本人が依存について相談をする時は、「こんなこと言っても大丈夫かな」「責められないかな」といった不安や恐怖など色々な思いを抱えています。まずは、「話してくださってありがとうございます」とねぎらいます。
- ・本人は「やりたい」「やめたい」という2つの気持ちの中で揺れていることが多く、この2つの気持ちがあるからこそそのしんどさに共感し、声かけをします。その中で本人が回復したい思いを持っていることを確認し、そのためにできることを一緒に考えていきます。

<家族編>

- ・依存症の人の家族は他人に依存の問題について話すことに抵抗があります。そこで、安心してもらえるように、秘密は守ることを伝えた上で、話を聞いていきます。この時、話すことに無理強いせず、話してもらえた時には、話しにくいことを話して下さったことをねぎらいます。
- ・暴力や暴言がひどく、家族に危険が及ぶ可能性が高い場合は、安全の確保が最優先です。避難場所を探すことや通報の必要があると判断される場合は、家族の同意を得た上で、他機関に連絡するなどの対応をとってください。
- ・「私の関わり方が悪かったせいだ」などと、自責感を抱いていることもあります。「ねぎらう」「肯定する」「共感する」を使って、家族の気持ちを否定せずに受け止めます。

<まとめ>

本人・家族どちらにも共通していることですが、依存症の問題は、本人の身体面・精神面の問題だけでなく、家族・職業・人間関係、借金など様々な問題が関係していることも多くありますので、様々な機関と連携して支援にあたる必要があります。タイミングを見て、医療機関や相談機関、自助グループ等を紹介します。初めての場所へ一人で相談に行くのは勇気のいることなので、関係機関の連絡先を伝えるだけでなく、その機関についてわかりやすく説明をしたり、支援者が相談の予約を取ったり、場合によっては同行したりすることがとても大切です。



このテキストは、
平成29年度 精神保健福祉業務検討プロジェクト
（依存症相談対応者養成テキスト作成）で、
大阪府保健所、中核市保健所、
大阪府地域保健課、こころの健康総合センターの
メンバーで作成しました。

（令和6年6月 こころの健康総合センターで改訂）



こころの健康総合センター 相談支援・依存症対策課

令和6年6月改訂

〒 558-0056 大阪市住吉区万代東 3-1-46

☎ 06-6691-2818 FAX 06-6691-2814

ホームページ「こころのオアシス」<http://kokoro-osaka.jp/>

